

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31 年 3 月 28 日

事業所名 児童発達支援センターはぐはぐ子ども村

		チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	0	十分な広さを保っているが、屋外の訓練に使えるスペースがないため、砂場など設置している。	現状を継続していく。
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0		現状を維持していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	0	写真や絵、図を多用して利用者にわかりやすいように視覚支援を取り入れている。	障がい者用トイレの改修を行いたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	0	不要な備品、用具類の整理、換気、清掃を心掛けている。必要に応じてカーテンなどを使用して刺激となるものが視界にいらぬように配慮している。	日常的に環境の点検を行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	3	全職員参加のケース会議にて検討している。	PDCAサイクルへの職員の意識向上に配慮していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0	5		今回が初回であり、次回以降様式の検討を含め改善していきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	0	6		事業所職員全体で検討し、今後ホームページでの公開を継続していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	2	6		第三者評価の実施を計画していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	0	外部研修の案内、園内研修の企画を行っている。	外部研修の機会をさらに高めるよう計画していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	0		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	3		より支援に有効なツールの検討を行っていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	0		職員の児童発達支援ガイドラインの理解、学習を深める場を設ける必要がある。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	0	朝礼で当日利用者の支援計画における短期、長期の目標確認及び、現状の報告と共通理解を行っている。	個々の支援計画の達成度の確認、検討を十分に行い、支援の向上に向けて、情報の共有を進めていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	1	日々職員間で検討している。	職員のミーティング等活用し、参画意識を高めるように配慮する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	0	事業所内外の療育担当者との日常的な意見交換を行うようにしている。	子どもたちの様子、状況を把握して季節の変化なども反映させるように検討していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	7	0	1	毎日にプログラムに、個別活動と集団活動を組み合わせている。	個々の特性に応じて、活動の内容を見直し、療育に反映させていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	0	支援前のミーティングは常時行っている。	ミーティングの内容の検討を行う。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	0	終了後の記録作成時、振り返りと情報の共有確認を行っている。	現状を維持していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0	支援終了直後に当該利用者全員の記録作成を行っている。	記録様式、内容、記入方法等今後検討を重ねる予定である。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0	現在6か月ごとに行っている。	個々の児童の状況に応じたモニタリングの頻度を考えていきたい。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0	原則、直接支援グループのリーダーが参加するようにしている。	その時に適切な参画者が出席するようにしていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	0	地域の保健センター等との連携をとるようにしている。	連携等の重要性を再認識し、職員間の情報共有を進め、支援に生かしていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	0	7	現在、該当児はいないが地域の諸機関との連携は図るようにしている。	現状を維持していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	0	7	現在、該当児はいないが地域の諸機関との連携は図るようにしている。	現状を維持していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	1	当園の保育所等訪問支援、療育支援事業を活用している。	県委託事業を活用しながら、連携を図っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	2	当園の保育所等訪問支援、療育支援事業を活用している。	県委託事業を活用しながら、連携を図っていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	1	作業療法士、理学療法士、その他専門職等よりの助言を受けている。	諸機関よりの助言などについては、職員間で共有し現場で実践を行う。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	3		現在、利用者全員が保育園、幼稚園との並行通園であるため、所属している園での通常の子どもとの交流はあるが、事業所が主体とはなっていないので、企画していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	3	4		事業所所在地には自立支援協議会は設置されていないが、設置のされれば参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	0	定期的な母子通園を懇談の場とし、子どもの状況を報告している	母子通園に参加が困難な保護者に対して、個別の機会を設ける等検討する。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	1	不定期ではあるが行っている。	10回コースというシステム上参加が困難であることから、参加しやすいようにコースの短縮を考えている。

		チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	2	契約時に丁寧に行っている。	利用者負担については、さらに説明が必要と考える。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	1	児童発達支援責任者が面談し、説明を行い同意を得ている。	保護者の十分な理解を得るためにも、説明などを徹底して行うようにする。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	1	定期的な母子通園を窓口に行っている。	毎月発行している「おたより」にも相談できることを告知しているが、もっと積極的に伝える必要がある。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	2		父母の会はないが、イベント等を通じて保護者間の交流、連携を支援していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0	相談等については随時対応し、心理士である代表者が個別に対応することとしている。	日頃から、相談等に気軽に申し込める関係性の構築が必要である。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	0	定期的なニュースレター(年1回)とお便り(毎月)の発行を行っている。	ホームページの活用と更新を実行していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	0	全従事者からの秘密保持誓約書の提出と利用者から取り扱いの同意書を頂いている。	個人情報の慎重な取扱いについての提起、指示を繰り返し行っていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0	繰り返しの頻度や伝達方法に配慮している。	現状を維持する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	0	0	定期的に開催しているイベントに地域の方や教育関係者へ案内を出している。	地域の方々へのお誘いを継続していきたい。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2	2	災害マニュアルを作成している。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	定期的な訓練を行っている。	訓練の内容を今後検討する必要がある。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	0	服薬等の連絡、報告を保護者などから受けている。	正確な情報を得て、事業所での共有を徹底していく。
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	0	5		現在、対象児はいないが必要な連携、対応を行ってきたい。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	3	他事業所の事例集を参考にしている。	事業所内での具体的な事例を検討して作成していきたい。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	1	職員が交代で研修参加し、社内研修を行うようにしている。	現状を維持する。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0	4		身体拘束が必要になったことはないが、身体拘束について更なる具体的な理解を職員間で共有すること、子ども、保護者への説明をきちんと行い、計画にも記載するようにする。